

史料編纂所

I	研究水準	研究 21-2
II	質の向上度	研究 21-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、国内外の系統的組織的な史料調査・収集活動を継続して行っている。基幹史料集を編纂出版するなど、歴史情報の蓄積と公開・発信によって社会に還元しており、それは教員個人の研究成果にも反映されている。研究資金の獲得状況については、平成16年度以降、積極的に外部資金の獲得を行い、科学研究費補助金の申請件数、新規採択数も大幅に増え、平成19年度の採択率は76%の高率に達している。また、科学研究費補助金以外の寄附金や受託研究費も本格的に開始され、平成16年度から平成19年度に獲得した外部資金は総計7億7,900万円となっており、研究の活性化につながっていることは、優れた成果である。

以上の点について、史料編纂所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、史料編纂所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、『大日本史料』、『大日本古文書』等の基幹史料集が45件公刊され、外部の専門研究者による第三者評価でも、「優秀な水準を維持」し「使命感をもって事業を進めている」と高い評価を得ている。社会、経済、文化面では、地域史編纂や教科書執筆等に研究成果が発揮されており、地方自治体の歴史編纂関係委員等の社会連携活動が行われていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、史料編纂所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、史料編纂所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。